

～下田のデキゴト～



11/ 1 生誕 100 年を記念して

本市ゆかりの文豪三島由紀夫の生誕 100 年に際し、三島研究の第一人者で三島由紀夫文学館館長の佐藤秀明氏を招き記念講演会を開催しました。日新堂横山郁代氏、志村孝雄氏によるライブ等も行われ、およそ 100 人の聴衆が熱心に耳を傾けました。



11/ 7～ 文化の香り漂う

第 70 回下田市芸術祭が開催されました。今年で 70 回の節目を迎え、市内各団体会員による作品展示、舞台部門の発表などが行われました。

また、市内小中学校や特別支援学校の児童・生徒たちの作品も展示されました。



11/15 すべての人が等しく楽しく

第 4 回ボッチャ大会を市民スポーツセンターで開催し、28 チーム 84 人が参加しました。3 人 1 組のチームがそれぞれ予選会・トーナメント戦に挑み、3 位以上のチームには賞状と副賞が送られました。会場からの拍手に選手たちの笑顔がこぼれていました。

11 月の できごと

2 日 磯焼け啓発映画「ここにいる、生きている。消えゆく海藻の森に導かれて」上映・講演会

4 日 令和 7 年度「静岡県子供・若者育成支援



11/ 4 下田との新しい架け橋に

関係人口の拡大を目指し、11 月 1 日付で 2 名の「二地域居住コーディネーター」を委嘱しました。（左：安丸千秋氏、右：湯本紀美子氏）

市の情報発信や相談窓口の設置、受入れ環境の整備など、二拠点居住の支援をしていきます。



11/ 8 体育館がみんなの遊び場！！

市民スポーツセンターで下田わくわくパーク「これば！」が開催されました。

親子で楽しく交通ルールを学ぶコーナーや、竹とんぼ・ゴムてっぼう作り体験など、普段なかなか出来ない内容に子ども達は興味津々でした。



11/18 南豆の歴史を後世に

「考古学の立場から賀茂郡の古代史を再検討する」と題し、日本考古学協会員・市文化財保護審議会外岡龍二会長が講演されました。約 30 人が聴講し、古代からつながる地名や近年の考古学研究における成果など解説いただきました。

強調月間」下田市青少年健全育成街頭キャンペーン

22 日 令和 7 年度中央公民館講座 東京大学樹芸研究所講座 チョコレートづくりを体験しよう！

※掲載情報は、11 月 30 日時点

地域子育て支援センター通信



11 月予定

5 日(月)	開放開始
14 日(水)	めだかルーム
16 日(金)	こま作り
17 日(土)	開館日 こま作り
19 日(月)	ラフターヨガ 講師：黒澤香恵子 場所：市民スポーツセンター視聴覚室
21 日(水)	育児講演会&製作 講師：下田Baby&Kids
22 日(木)	誕生会
23 日(金)	わくわくタイム
26 日(月)	発育測定・育児相談 9 時～11 時 保健師・栄養士来所
28 日(水)	あひる・うさぎルーム
29 日(木)	鬼のお面作りと節分のお話
30 日(金)	鬼のお面作りと節分のお話

※予定は変更になる場合があります。

詳細は子育て支援センターまでお問い合わせください。

問合せ先：地域子育て支援センター ☎⑦2200

空気がヒンヤリと冷たく感じられるこの季節。あっという間に年の瀬となりました。今月はクリスマスやお正月休みなどの楽しみもいっぱいです。十分な睡眠と栄養を心がけ、家族みんなが元気に楽しく過ごせるといいですね。



誕 生 会



ハ ロ ウ ィ ン 製 作



体 操 教 室



ミ ニ ミ ニ 運 動 会

こんにちは、教育長です

へびのうわさ

賀茂地区の小・中学生の詩・短歌・俳句・文章を掲載している文集に「あすなろう」という冊子があります（多くの皆さんはご存じのことと思いますが）。教育長室の書棚にあった、かなり古い一冊をたまたま手に取って開くと、こんな詩がありました。「へびのうわさ」
よるくちぶえをふくと、へびがくるっていううわさ、しってる？
でも、おとながつくったはなしなんだって。
こわくなくなっただけど、やっぱりくるかもしれないよ。
はじめてこのうわさをきいたとき、ぞうつとしたよ。
平成 10 年（27 年前）発行の 102 集に掲載された、当時浜崎小一年生の作品です。今は 34 歳くらいのお父さんになっているのでしょうか。この「うわさ」がかわいらしく思わずあちこちでちよつとした話題に使わせていただいています。

私たちが子どもの頃は、親や祖父母、叔父叔母から「夜口笛を吹いてはいけません」とか「夜に爪を切つてはいけません」「朝の蜘蛛は殺してはいけません」などよく言われたものです。ところで、この「あすなろう」は今年小学校が 154 集、中学校は 137 集の発行になるそうです。昭和 24 年（1949 年）戦後の逆境期から高度経済成長期を経て現在まで「純真な子どもの目」がとらえた賀茂の郷土誌そのものの「編集者は発行に寄せてそう記しています。昭和 24 年の発行当時賀茂地区には小・中学校合わせて 58 校（現在 24 校）ありました。子どもたちが何を見てどう感じ、どのように生きてきたか。時代を映し出す子どもたちの生活の息づかいが載せられた貴重な文集として 76 年間編まれ続けてきました。

私は、たまたま「へびのうわさ」を読みましたが、皆さんのご自宅にも古い「あすなろう」が静かに眠っているかもしれません。ありましたら手に取ってみてはいかがでしょう。きつとむかし懐かしいふるさとの生活風景がよみがえることでしょう。

